

「第1回 宮城県総合計画審議会」会議録

日 時：平成18年6月22日（木） 午前10時から午前11時30分まで

場 所：宮城県行政庁舎4階 特別会議室

出席委員：牛渡委員，小金澤委員，新妻委員，畑山委員，福嶋委員，紅邑委員，星宮委員，柳井委員，内田委員，梅原委員，天野委員，榎原委員，小山委員〔代理出席〕，木村（春）委員〔代理出席〕，木村（稔）委員，熊谷委員，佐々木委員，佐藤（豊）委員，佐藤（博）委員，龍田委員，羽田委員〔代理出席〕，幕田委員〔代理出席〕，丸森委員，師委員

計24名出席（欠席者なし）

宮 城 県：知事，教育委員会教育長，総務部長，企画部長，環境生活部長，保健福祉部長，病院局長，産業経済部次長，土木部次長，警察本部警務部警務課企画官

事 務 局：企画部次長，企画部政策課長，政策課長補佐，政策課政策企画リーダー，政策課政策企画サブリーダー

1 開 会（司会：宮城県企画部政策課長補佐）

村井知事より，各委員に委嘱状交付

2 あいさつ（村井知事）

本日は，大変お忙しい中，第1回宮城県総合計画審議会に御参加を賜り誠にありがとうございます。また，この度は，宮城県総合計画審議会の委員をお引き受けいただき，ありがとうございます。

本県を取り巻く社会情勢に目を向けますと 昨年10月に実施された国勢調査の結果速報では，宮城県の人口が大正9年の調査開始以来，初めて減少に転じたほか，先日発表されました合計特殊出生率も1.19とこれまでで最も低い数字になるなど，これまでの予想を超える早いスピードで人口減少社会に突入しております。

また，いわゆる三位一体改革や市町村合併の進展など，国と地方のあり方が見直されている中で，さらなる行財政改革や国と地方の担うべき役割など，地方自治・分権改革に向けて国や地方6団体において議論が行われております。

このような社会情勢を踏まえますと，私はこれまでの人口増と経済成長を前提とした社会の仕組みを根底から見直す時期に来ており，ここ数年間の取組が本県の将来を大きく左右する重要な分岐点になるものと強く感じております。

また 地方分権の大きな流れの中にあって 地方自治をさらに確かなものにしていくためには，自己決定・自己責任の原則の下，地域が自らの足で立つという気概を持って，積極果敢に行政運営に取り組んでいかなければならないとも考えております。

さらに，このように大きな変革期にある今，時代の潮流を的確にとらえ，市町村との役割分担や県民の皆様との協働も念頭に置きながら，宮城の将来を見据え自立的な発展への道筋をしっかりと構築していくことが大きな責務と考えております。

このような考えのもと，県におきましては，激動する内外の情勢変化と地域の課題を的確に把握した上で，10年後を見据え，将来の宮城のあるべき姿や目標を県民の皆様と共有し，その着実な実現に向けて県として優先して取り組むべき政策の方向性を明らかにする，仮称でございますが「みやぎの将来ビジョン」を策定することにいたしました。

この将来ビジョンの策定に当たりましては、県民の皆様をはじめ県内各界各層からの御意見をいただきながら政策官庁としての総力を結集し全力で取り組んでまいりたいと考えております。

委員の皆様には、たいへんお忙しい中、短期間での御審議をお願いすることとなりますが、真に活力に満ちた宮城を構築するため、日ごろの御研究や御活動などの結果を踏まえ、これからの宮城県のあり方や県の進むべき方向性について忌憚のない御意見、御提言を賜りますよう心からお願い申し上げまして、開会に当たりましての御挨拶とさせていただきます。

司会より、県関係職員紹介

司会より、出席者数（計24名）が報告されるとともに、総合計画審議会条例第6条第2項の規定により、本日の会議は有効に成立している旨、報告

3 議事

(1) 会長及び副会長の選任について

会長が選任されるまでの間、村井知事を仮議長として議事が進行された。

会長の選任

- ・委員の互選により、会長には星宮委員（東北学院大学学長）が選任された。

副会長の選任

- ・会長の指名により、副会長には小金澤委員（宮城教育大学教育学部教授）が選任された。

村井知事から、星宮会長あてに諮問書（資料1）が手交された。

[星宮会長あいさつ]

ただいま、当審議会の会長を仰せつかりました、東北学院大学の星宮でございます。こういう審議会のまとめ役というのは、これまであまり経験がありませんので、大変戸惑っておりますが、皆様の御協力を得て、審議会としての答申を行ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

先ほどの知事の御挨拶にもありましたように、少子高齢化の進行や、三位一体改革の進行による国と地方の関係の変化など、宮城県を取り巻く社会情勢は大きく変わってきております。この審議会では、ただいま知事から諮問がございましたように、大きく変わりつつある社会情勢を踏まえまして、今後10年間を見据え、宮城県が県政を運営していくにあたっての基本理念と、今後重点的に取り組むべき課題などについて審議を重ねていきたいと考えております。是非、御協力をお願い申し上げます。

策定スケジュール等の詳細につきましては、この後、県側から説明をいただくことになっておりますが、今年度中に策定するという非常に短い期間での作業でございますので、皆様方からそれぞれ専門的分野を踏まえた忌憚のない御意見をいただいて、将来の活力ある宮城を実現するための確かな道筋を作っていきたいと考えております。是非、委員各位の御協力をお願い申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。

総合計画審議会条例第6条の規定により、ここから会長が議長となって議事が進行された。

(2) 会議の公開について

事務局（企画部政策課長）より「資料2」に基づき説明。

- ・ 県の情報公開条例では、開かれた県政を推進するため、審議会などの会議は原則として公開

するものとされている。

- ・ この例外として、個人情報などの理由で非公開の扱いが認められる場合があるが、その扱いは第1回目の会議で決めることとされている。
- ・ 事務局としては、この審議会は非開示情報を扱うことは想定されておらず、また県民に広く公開された場で議論を進めてまいりたいと考えているので、公開という扱いにさせていただきたい。
- ・ あわせて、傍聴要領の案を資料2のとおり提案させていただく。
- ・ 傍聴定員は、一応10人と設定するが、多くの方が傍聴できるよう、会場の大きさに応じて、適宜増員を図っていく。
- ・ なお、公開した会議の資料及び会議録は、県の県政情報センターにおいて県民の皆様の閲覧に供するとともに、ホームページに掲載し公開するものとされている。会議録については、事務局で原案を作成し、委員の皆様にご確認をいただいた上で、公開の手続きをとらせていただく。

【星宮会長】

ただいまの事務局説明について、何か御質問・御意見等があればお願いしたい。
質問・意見等なし。

【星宮会長】

それでは、事務局原案のとおり承認することとしてよろしいか。
異議無しの声。事務局原案のとおり承認された。

- (3) 「(仮称)みやぎの将来ビジョン」の策定について
企画部長より「資料3-1」及び「資料3-2」に基づき、内容説明。

【星宮会長】

ただいま、小林部長から「みやぎの将来ビジョンの策定について」及び「宮城県の現状整理について」ということで説明があったが、大変重い役割を持った審議会であると改めて認識をした。
ただいまの説明について、何か御質問・御意見等があればお願いしたい。

意見交換

【木村(稔)委員】

- ・ 昭和の時代から総合計画が策定されてきたわけが、どうも計画に対して実績が追いついていないような気がする。ずっと古い時代から計画を下回っている。これでは、県民が満足感を得ることはできないと思うので、この機会に、皆さんと共に計画を達成できるようなビジョンの作成をお願いしたい。

【星宮会長】

- ・ 大変大事な指摘だと思う。

【小金澤副会長】

- ・ 県のプランと、現在合併が進められている各地域の市町村プランとの整合性の問題をどのように考えていくのか。特に、県全体のプランと県の地方計画との関係で言えば、地方計画の範囲が市町村のテリトリーとだんだん一致してきているので、行政効率の側面から言えば、その辺が一つのポイントになると思う。
- ・ 全体の問題として、今回の将来ビジョンを1年間で作成する場合、今回独自に、当面やらなければならない課題、とりわけ先ほど知事が「ターニングポイント」、いわゆるこれから高齢化社会に

向けての転換点であるとの話をしていたが、その転換点に向けて、宮城県としての大きなビジョン、重点テーマを出して、独自の政策を新たに作るのか、それとも大きなイメージを出して、県の既存の計画とすりあわせるのか、どちらでいこうとしているのかがよく判らない。1年位で作成するならば、大きなテーマを1つ出して、それに既存計画とすりあわせていくのかと思うのだが、その辺がどういったイメージになるのかがよく判らなかった。

【星宮会長】

- ・ ただいまの小金澤副会長の指摘は大変重要だと思うが、企画部長あるいは知事から何かありましたら発言をお願いしたい。

【村井知事】

- ・ 貴重な御指摘を小金澤委員からいただいた。
- ・ 先ほど、私の話の中で触れていなかったが、今までは、総合計画という名称で作成しており、長いものでは13年から15年というものもあったし、短いものでは9年から7年というものもあった。私は、今回「将来ビジョン」という形にさせていただいた。どういうことかと言うと、いくら10年先の細かな計画を作ったとしても、我々が描いている世の中の流れよりも、今の世の中の流れというのはもっと早く、変化が激しいので、今までの計画のように、読んでいるだけで眠くなるような分厚いものを作るのではなくて、ビジョンなので、10年後の宮城の将来を描こうと思った。しかも、今までの計画は、外部に委託して叩き台を作っていたが、今回はまず庁内の人間で、私と同じくらいの、10年後にまだ県庁に居るような職員が中心になって、夢を語り合いながらビジョンを作っていくことにしている。それに併せて一般の県民の皆様の御意見を賜り、こちらの審議会でも御審議をいただくという形にしている。
- ・ 小金澤副会長からの質問に答えるとすれば、まず大きなビジョンを1つ描いた上で、既に様々な個別計画があるので、個別計画を修正する必要がある場合は修正するような形で、ビジョンに近づけていくような形で持って行きたいと考えている。私自身、県議会議員を3期10年やってきて、浅野県政がやっていたいろいろな計画を、一部意見を言って変えてもらったものもあるが、概ねオーソライズしてきた立場にあるので、知事になって、一つひとつの計画を大きくドラスティックに変えるということは考えていない。そういうことよりも、ビジョンに向けてやらなければならないことがいろいろあるので、やれることからやっていく。しかし、夢が無ければ、ビジョンが無ければ何もできないので、その大きなビジョンを今回作りたいたいということである。
- ・ 市町村プランとの整合性ということであるが、合併した市町村などでは改めて計画を策定しているところもあるので、これは別途考えていかなければならない問題だと思っているが、県の計画が出てから市町村にという訳にもいかないし、市町村の計画が出来てから県の計画にという訳にもいかない。大きなビジョンを作るので、そういった意味では、将来的に整合性を図っていくことも可能なビジョンを作ってまいりたいと考えている。

【星宮会長】

- ・ 先ほどの小金澤副会長の御指摘に対して、かなりしっかりした方向性を示していただいた。庁内のスタッフでのホットな議論でいくつかの提案がなされ、そこにこの審議会からの提案も含めて、そして優先順位を付けていくということになるのかと思う。

【梅原委員】

- ・ 市長会長の立場で出席をさせていただいている。よろしくをお願いしたい。
- ・ 村井知事には、就任以来、県内を走り回っていただいて、そのご尽力に敬意を表する次第である。
- ・ 今回の総合計画審議会では、県の将来をビジョンとして示す県からのメッセージを審議することで非常に重要なものとなる。そういう前提に立って、私から3点ほど各論に渡ってお話させていただきたい。1点目は農林水産業について、2点目は教育問題について、3点目は地方分権についてである。
- ・ まず農林水産業についてだが、宮城県のGDPは約8.5兆円。そのうち、第一次産業（農林水産業）はわずか1千7百億円、大体2%である。ちなみに仙台市の場合は、GDPが4兆円、一次産業が約百億円で、大体0.25%。数字の上では非常に小さい。私たちが育った頃、日本は農業国で、大体GDPの30%位あった。しかし、その数字が小さいということとその重要性とは全く比例しない。速報ベースで、皆さんの食料のカロリーベースの食料自給率は40%を切っている。先進7

カ国（G7）で比較しても、一番低いイタリアやイギリスで約70%、アメリカやカナダ、フランスなどの農業輸出国では百数十%である。本当の先進国とは、実は農業大国であり、農林水産大国である。これから気候変動などいろいろなリスクがある中で、国全体としても非常に危機的な状況にあるということ、共通認識として持つ必要がある。国の方でも、WTO交渉や自由貿易協定（FTA）交渉において譲るべきところは譲る、守るべきところは守るというスタンスで交渉してきたが、東南アジアであるとかいろいろな国から農林水産品が自由化されて、日本に入ってきている。その中で、今後農林水産業がどうやって生き残るかを考えていくことは、県にとっても非常に重要な課題である。農林水産省も、昨年の春に、農業基本計画を抜本的に見直して、従来の農政の基本スタンスを相当大きく変えていくことにしている。農水省幹部の村井県政における農林水産行政に対する期待は非常に高いということは、既に知事にも報告している。

- ・ 数日前、IWC（国際捕鯨委員会）総会のニュースが流れていたが、御承知のとおり33対32という非常な僅差で、商業捕鯨の実施についてこれまでとは違った歴史的な採決が行われた。直ちに商業捕鯨の再開にはならないが、水産業は明らかにある種の地殻変動というか、劇的に変化する要素が出てきている。捕鯨嫌いで有名なイギリスの「タイムズ」という有力な新聞が、初めて商業捕鯨・調査捕鯨について非常にリーズナブルな論陣を張った。このように、いろいろな意味で農林水産業を取り巻く環境はプラスの方向に向かっているという認識を持っていただいて、ビジョン策定に当たっていただきたい。
- ・ 2番目は教育の問題。現在、村井知事と私で役割分担をしながら、県内外の企業、研究機関、国際会議の誘致などに取り組んでいるが、投資をする側から見た時に、最大の決定要因は、そこで働く社員が住みやすいかどうかということである。またその中で一番大きな要素は、子供の教育である。教育長がいらっしゃるところで恐縮だが、これは各種の調査が示すとおり、宮城県の初等教育・中等教育はいずれも全国の全体レベルから見て下位にあるという状況である。私は仙台市長なので、仙台市内の初等・中等教育について、最終的な行政の責任者として教育委員会と相談しているが、全国の県立・公立高校でも富山県のように勢いを取り戻している県がいくつかある。やはり、子供をきっちり教育できる環境が整って初めて、外からの投資が得られる。また、県民も安心して子育てができる。こういうところをしっかりとやらなければいけない。よく引き合いに出すが、インドの子供たちは、我々の九九にあたるものを19×19までスラスラと暗唱する。「ラーマヤーナ」「マハーバーラタ」といった叙事詩をスラスラと暗唱する。日本は、とりわけ初等・中等教育の基礎学力が崩壊している。この現状を確認しておかなければならない。非常に厳しい状況である。いわゆる「ゆとり教育」路線は、事実上、見直しが行われている。最近の文部科学省の人事を見ていただければ明らか。「ゆとり教育」路線が修正を余儀なくされる中、近隣のアジア諸国の子供達はどんどん学力が向上している。このままでは日本にとって由々しき問題である。競争に負けてしまう。この状況をしっかりと見据えて、学力向上を目指していかなければならない。
- ・ 3番目は地方分権について。昨今の論調は、国にもいろいろな問題があるが、ともすれば「国対地方」という二項対立的な図式が強調されがちである。これは本来の議論としてはおかしなことであって、国と地方がいかなる機能分担・役割分担をすることが国全体にとっても地方にとっても最適なのか、という観点からの議論がまだまだ不十分である。財源や税源の取り合いというか、その部分だけが強調されている。それはそれでいろいろな政治的な状況があるので致し方ない部分もあるが、ちなみに、東北地方の市長会では「国と地方の協働による地方分権」というタイトルで、つい最近も要望書を提出した。この審議会は、地方分権それ自体を議論する場ではないが、議論の大前提として地方分権の認識を踏まえておくことが大切だと思う。

【星宮会長】

- ・ 梅原市長さんからは3点、農林水産業の重要性、教育の重要性、地方分権における国と地方の機能分担的なものをしっかりと認識して、今後の宮城県のビジョン策定に当たるべきであるという指摘だったと思う。ありがとうございました。

【村井知事】

- ・ 梅原委員の発言は、全て、その通りの御指摘だったと思う。
- ・ 1つずつお答えするが、まず一次産業については正にその通りである。先ほど申し上げた、庁内のグループでいろいろとチームを作って検討しているが、私の方針としては、一次産業は2つの観

点で必要だと思う。1つは、儲からないからやめるということでは駄目だということ。地球規模で考えると、間違いなく人口は増えているので、食料不足が近い将来起こることは想定できる。食料自給率を上げることは大切なので、一次産業を守っていくというのは大変重要な視点である。この観点を忘れないようにということ。もう1点は、後継者を育成するためには、守るだけでは育たない。したがって魅力ある一次産業にしていかなければいけないので、やはり儲かる一次産業を目指していかなければならないのではないかと。その2つの観点で検討してほしいという指示を出している。

- ・ 教育問題については、将来ビジョンではあまり細かいことには触れずに、教育委員会の方で計画を立てているので、大きなビジョンという形で作ってほしいと思っているが、公立教育の重要性については充分認識しているが、これについては後ほど教育長の方からお答えする。
- ・ 地方分権については、正に国と地方の機能分担の視点が重要であると思っている。ただ、地方分権まで、県の将来ビジョンの中で踏み込むのはかなり難しい面があって、やはり国の考え方を聞かなければならないので、これについては、地方分権がどの程度進むのかということについては今のところ予測することは不可能であり、不確定要素が大きいということもあるので、当然それは進める努力はするが、この将来ビジョンにおいてどこまで進むということを前提にビジョンを描くのはかなり難しいのではないかと、現時点では考えている。

【教育委員会教育長】

- ・ ただいまの梅原委員の御指摘はもっともだと思う。県教委としても、学力の問題は最大の課題と考えている。4県（岩手・和歌山・福岡・宮城）で実施した学力テストの結果を見ても、宮城の結果は低位であったという認識を持っているので、どういったところが弱いのかという結果を解析して、具体的な対策を考えてまいりたい。また、昨年3月「学力向上推進プログラム」をつくり、県教委としても各種施策を講じていくこととしており、今後とも力を入れて対応してまいりたい。

【星宮会長】

- ・ 今の梅原委員の発言にフォローしたいが、東二番丁の電力ビル「グリーンプラザ」の展示を見ると、江戸時代、世界最大の都市、江戸の米の大部分は宮城県産であった。そういう事実は我々の間で確認しておきたいと思った。
- ・ また、教育のことについて発言をいただいたが、我々も当事者としてその一端を担っているのでもちよっとご紹介したいと思うが、初等・中等教育ではないが、大学関係では「仙台学長会議」というのがもう10年近く前からあって、そこで「単位互換制度」をかなり早くから実施している。また高校と大学の連携ということについても、仙台市からの「コンソーシアムのプランはどうか」というご提案をいただいたことに対して前向きに話し合いをしてきた。学校への出前授業といったことについても、各大学が考えており、仙台周辺ではあるが、小・中・高・大学という形での取組を進めていることを紹介させていただく。

【梅原委員】

- ・ 農水関係で、こういうエピソードがあることをご紹介したい。
- ・ 私は東南アジアの仕事を長くやっていたが、毎年12月に、タイで農水省とJETROの共催で「日本食品展」が開かれている。私も1回目に参加したが、そこに宮城県のブースがあったのでそこを覗いてみたところ、ある水産系の会社と、皆さんよくご存じの「最中」の会社が展示してあって、タイ人の家族連れや子どもたちが、仙台名産の最中に群がって食べているという状態であった。東南アジアの人々は、本来、「餡子」の味というのは知らない。ところが、小豆の餡子の美味しさを知ってしまった。日本食それ自体がファッション以上にブームになっており、鯖飯にしてもやはり「日本米」でなければならぬといっている。去年の12月には私は行けなかったが、現地のJETROの職員に“今年は何が評判がいいのか”と聞いてみると、静岡の苺だったそうだ。
- ・ 同じようなことは中国の大都市圏、所得水準の高い、上海や北京などでも起きている。鳥取の梨が旨い、山形のさくらんぼが旨い、明らかに、そういった購買力は非常に大きくなってきている。これは、我が宮城県にとっても大変なチャンスである。正に、宮城ブランド・仙台ブランドのものを、攻めの農林水産、攻めの食品産業として取り組んでいく。そして、その先頭に立つのは、もちろん村井知事である。私としても知事とともに積極的に取り組んでまいりたい。

【柳井委員】

- ・ 県のいろいろな指標を説明していただいたが、思いついたことを発言させていただく。
- ・ 県民満足度調査の第2回目の調査で、かい離の数字が一番大きかったのは「雇用の安定」であった。これからビジョンを考えていく上で、この雇用安定という部分は大きな位置を占めてくると思う。
- ・ これまでの経験を踏まえると、特に九州と比較してみると大変おもしろいのだが、一時期、半導体産業を中心に、電子部品産業が東北地方や九州地方に大量に集積した。ところが、実際にアジアがキャッチアップしてくるとどういうことが起きたかという点、東北の方はどんどん空洞化していった。九州の方はむしろレベルアップしていった。その結果として、環境産業や自動車関連産業において集積が集積を生むという循環を作りだしてきた。考えてみると、技術の地域移転といったことへの対応は、宮城をはじめ東北地方では遅れているのではないかという意識を持っている。
- ・ 私も25年ぶりに仙台に帰ってきて2年目になるが、大学の卒業生は、皆東京や外国に行ってしまう。そうすると、大学そのものの集積のすごさに対して、地域の技術開発力がうまく対応していない。つまり、普通であればそういった大学や人材が育てば、その地域に残って、よりよい方向で県土を発展させていくはずだが、その辺の受け皿作りが進んでいない。ここを考えていく必要があると思う。ある程度、そういう仕組みづくりをしっかりとやっておけば、この空洞化問題にも対応できるだろうし、県民の総生産の問題にも繋がっていくかと思うので、是非この辺の企業環境と就職環境が改善されるような方策を考えていただきたい。

【星宮会長】

- ・ 私電子工学をやっているもので、それはひしひしと感じている。仙台圏は東北大学をはじめ、東北工業大学など工学部関係の大学がたくさんあるが、職場があまりないということは昔から言われている。いろいろな意味で、またお知恵を拝借したいと思う。

【紅色委員】

- ・ 今、柳井委員がおっしゃっていた県民満足度調査の結果の中で、かい離しているまとめられているものに「どこに住んでいても必要な医療や保健サービスが受けられる環境づくり」と「子どもを安心して生み育てることができる環境づくり」と「県民が安心して安全な生活を送るための環境づくり」などが上げられている。昨今、市町村合併が行われた中で、これまで地域という小さい単位で行われていた公共サービスが、合併によってまたそれが違う形に変化してきている過程の段階だと思うが、そういった意味では、合併する以前にこういった数字が出ていたとするならば、合併後の対応もまた重要な問題だと思うし、また、広域的なサービスのあり方とか、あるいは行政と民間との協働といった形での担い手づくりの推進ということについても、これから積極的に検討していくことが必要ではないかと思うので、今回のビジョンの中でもそのあたりのことを検討できればいいのではないかと考えている。

【星宮会長】

- ・ 県民が安心して安全に生活するための公共的サービスも含め、民間との協力、NPOとの協力ということなどについて、ぜひ今後具体的な案を披露していただきたい。

【丸森委員】

- ・ 私は、宮城県の10年後がどのようになっているのかということはずっと頭に描きながらこの資料を見ていた。まず、経済のGDPであるが、この資料にもあるように、仮に今後も1.7%の成長率でいくとすれば、資料にあるとおり、平成22年にはGDPが約10兆6千億円になるが、それがどのように一次・二次・三次産業に分配されているのか、ということをもっと考えた。知事も「富県宮城」を標榜しているが、宮城県が本当に富んでいった場合に、どのような配分になるのだろうか。今の人口のほぼ半分を仙台市が占めているように、私は仙台市に相当のウェイトがかかってくるだろうと考えている。その場合、地方がどのようになっているか、施策はどのようなものが必要なのかを考えてみる必要がある。私はいつも思っているのだが、まず、道路・港湾といったインフラが整備されることが必要だ。
- ・ それから、農村の人口がどんどん減って行って、あるいは地方もどんどん人口が減っていくような時代なので、やはり地方（郡部）の方も魅力あるような地域にしていかなければならない。やはり、地方にいいことを誇れるようなものが何か無ければいけないのではないかと考えている。そう

しないと、皆が仙台に集まってきて、仙台がリトル東京のようになってしまったのでは問題だと思う。だから、今回の市町村合併で大崎市とか栗原市とか新しい市ができたが、そういったところに拠点的なものを作って行って、仙台ほどでなくてもいいので、それぞれに魅力を出せるようなことを地域で検討して行ってほしい。

- ・ 私は、旧米川村の出身だが、そこには大変古い馬頭観音がある。相当立派なものだが、かなり傷んでいる。そういった古いものも大切に残していく。地域の人が、お祭りであっても古い文化であっても誇りを持てる「私はこの地域の出身である」と誇りを持って言える、そういったものを残していくことが大切である。
- ・ ビジョンなので、10年後に向けてどういったものにプライオリティをおいて取り組んでいくかが行政の手腕だと思う。

【新妻委員】

- ・ 現状の整理をしていただいて、我々の前に立ちはだかっている垣根、ハードルは高いということを変更して認識した。
- ・ 知事がおっしゃった、計画ではなくビジョンだということに共鳴するところだが、果たして同じ意見かどうかについてはもっと議論してみないと分からない。
- ・ 垣根を越えることは重要だけれども、垣根を越えてどこに行くのかという部分が非常に重要だ。その垣根を越えて我々宮城県がどこに行こうとしているのか、あるいは日本という国はどこに行こうとしているのか、あるいは、人類はどこに行こうとしているのか、破滅に向かっているのではないかと、環境の問題を含めて。その時、東北の地にあって、あるいは東北の風土あるいは人ということを考えてみて、我々はどこに行こうとしているのかということ、将来ビジョンの中で立てられたらいいのではないかと。ただし、そういうことを考えると、10年というのはかなり短いかもしれない。それを庁内の若手職員の中で揉んでいるのかなという期待を持っている。

【榎原委員】

- ・ 個別具体的な話については、次回以降の会議で話をしていきたいと思うが、知事が折角いらっしゃっているので、一言御礼を申し上げたい。昨年12月8日、連合宮城として生活者又は消費者の皆さんで政策を組み立てて知事に要望した経緯がある。その際に、予想される宮城県沖地震を想定し、県や市町村あるいはNPO団体、そして我々連合宮城が参画したボランティア体制を整備すべきだという要請を知事に申し上げたところである。これに対して、知事から前向きな回答をいただき、昨日、災害ボランティアセンターの支援連絡会議というものが開かれ、我々連合宮城も参加させていただいた。心から御礼と感謝を申し上げる次第である。
- ・ この地震災害に関しては、我々労働組合も、率直に申し上げて少し危機感が薄いというところがあって、我々もいろいろと思案しているところだが、考えてみると、我々労働組合の中には、県庁も、市役所も、電力も、水道も、ガスも、NTTもあるわけで、ある意味では専門家というか、専門性を持っている労働者であるので、行政と連携しながら、我々連合宮城の方でも一定の役割を果たしたいと考えている。

【星宮会長】

- ・ 近い将来、大地震が来るだろうということは我々も認識しているわけだが、それがすぐなのか、10年後なのか分からないが、それに対しても審議会の中で何らかの格好で集約をしたいと思う。

【羽田委員（村上理事代理）】

- ・ 確かに、宮城のものづくり産業や工業等は、他地域に比べ決して誇れるものではない。これは皆さんもご認識のとおりであるが、先日、東北経済産業局主催の「ものづくりコリドー」の話があった。広域仙台圏においては、将来にわたってそれとしっかりリンクをして、まずはこの地域にもっと企業が住みやすい環境づくりというものをしっかりとやっていくべきである。
- ・ 競争力のある宮城県を作るために、ものづくりの大事さをもう一度掲げて、かつ国の施策とリンクするような施策を立てていただければと思う。

【牛渡委員】

- ・ 先ほど教育問題が出たが、教育問題というのは非常に重要な位置を占めている。それは、宮城県の将来の問題であると同時に、これまでの我々の、大きく言えば人類が創り上げてきた叡智や文化財を如何に継承していくかという問題でもある。また、宮城県をどう豊かにしていくかという経済

的な問題にも非常に重要に係わるものであると同時に、如何に人間として豊かに生きていけるかという問題にも結びつく。そういった意味で経済的な視点と同時に、精神的な豊かさという視点も含めながら議論をしていければいいと思う。

[小金澤副会長]

- ・ 今までの皆さんの議論を聞いていて、一つは宮城全体の議論という点では、教育や福祉や産業面、農業面などが出されているが、産業構造ということ言えば、従来、産業のあり方を議論するときには、いわゆる農・工・商が中心になっているわけだが、先ほどから出ているように、どういう業種なのか、どういう職種なのかということイメージして、具体的にどんな産業を宮城の中に持ち込んで発展させるかという視点を、細やかに考えていくことが重要だと思う。
- ・ それから、今まで議論が出てきた中で、宮城全体の産業論であるとか、教育のあり方であるとか、福祉の問題であるとか、いろいろあるわけだが、もう一つ、宮城県内部の地域間格差の問題はどうしてもはずせない。なぜ地域間格差が生まれるのだろうか。農村部の人口が減っているが、それは一般的に農業に魅力が無いだけではなく、今、農村部で生まれた息子や娘たちが都市に住んでいるわけだが、高齢化に伴って、お年寄りたちが農村部を捨てて、都市に住んでいる息子や娘たちのところへ移っていく動きも当然あるわけなので、そういう意味での人口の移動が起きてきている。そうすると、全体として都市部に人が集まってくる傾向が非常に強くなってきて、農山村が衰退するという仕組みが生み出されているということは非常に重要な視点だろう。
- ・ それからもう一つ、都市部においても、仙台の都市の発達の段階で、やはり住宅団地にまるごと同じ世代が暮らしているような状態が仙台の大きな特徴の一つであるが、そういう都市構造を持っているものだから、団地が丸ごと高齢化しはじめるという現象が既に起きてきている。仙台市という都市の中でも都市間格差が出てきている。また都市機能の面で言えば、県でも一生懸命取り組んでいる中心市街地のシャッター通りをどうするかというような格差も生じてきている。これは、全て大型店の規制だけで済む問題ではなくて、もっと機能的な問題も含めて議論しないと、それでは大型店の規制を止めればシャッターが開くのかということ、単純にはそう言えない部分もある。その辺りの議論が大事だ。
- ・ 先日、外務省と一緒にセミナーを開いたが、2005年から国連が「持続可能な開発のための教育の10年」、簡単に言うと、国連が持続可能な社会を今後10年間でどのように作っていくのかというビジョンを作りましょうというキャンペーンを張っている。いま現在、仙台広域圏という形で、宮城県・仙台市を中心にして国連大学の地域拠点として認定されているので、そういうキャンペーンには宮城県もある程度乗って、そういった持続可能性をこれから世代を超えてどのように発展させていくのかという議論もこの中に盛り込んでいただければと思う。

[星宮会長]

- ・ そろそろ予定していた時間となった。今回は第1回目ということもあるので、本日はこの辺で審議を終了させていただいてよろしいか。
- ・ 今後のスケジュールについては、事務局で作業を進め、8月の第2回審議会において骨子案を提示いただき、委員の皆様方にお諮りするという段取りになっていると伺っている。

(4) その他

事務局(企画部政策課長)から、次回の会議を8月25日(金)13:30~15:30の日程で開催する予定である旨を説明。

4 閉 会